

経済・金融
フラッシュロシア GDP(2024年10-12月期)
—前年比伸び率は再び4%台半ばに上昇

経済研究部 主任研究員 高山 武士

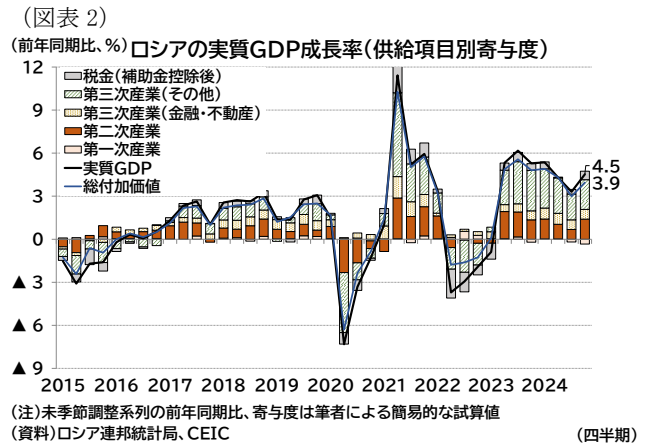
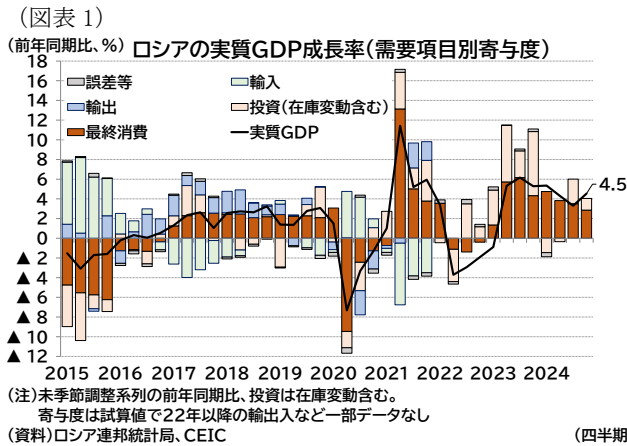
TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比伸び率は4.5%まで上昇

4月11日、ロシア連邦統計局は国内総生産(GDP)を公表し、結果は以下の通りとなった。

【実質GDP成長率(未季節調整系列)】

- ・2024年10-12月期の前年同期比伸び率は4.5%、予想¹(同3.6%)より上振れ、前期(同3.1%)から上昇した(図表1・2)



2. 結果の詳細:25年入り後の成長率には陰りも

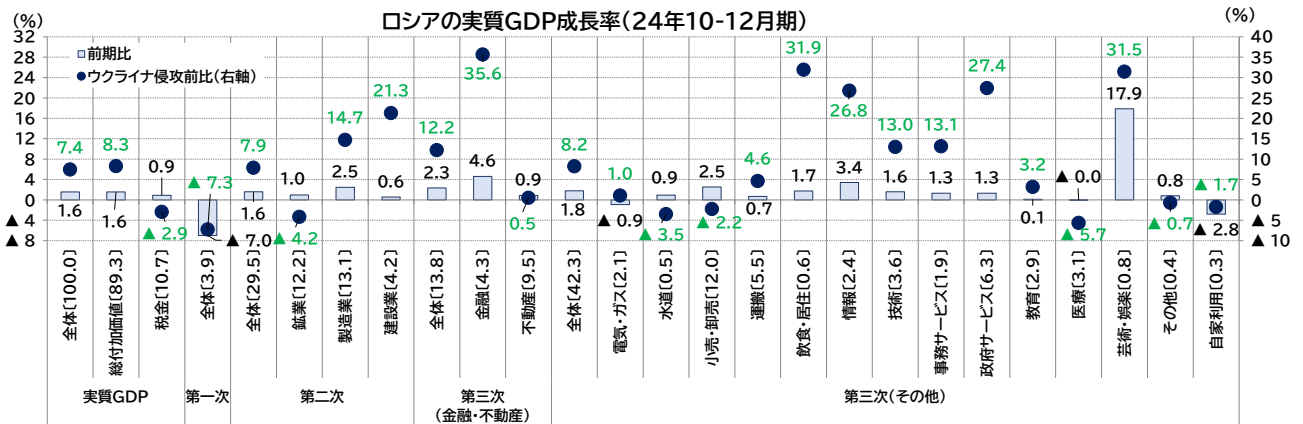
ロシアの24年10-12月期の実質GDP伸び率は前年比4.5%となった。また24年暦年の成長率は4.3%となり、暦年成長率は2月7日に公表されていた一次推計値(4.1%)から上方修正された。季節調整系列の前期比は1.6%(年率換算6.3%)で、7-9月期(前期比0.9%、年率換算3.6%)から加速、10四半期連続でのプラス成長となった。また、戦争前(21年10-12月期)と比較した実質GDPの水準は7.4%だった。

成長率を需要項目別に見ると、前年比伸び率では家計消費が4.3%、政府消費が4.5%、投資が4.5%、前期比伸び率では家計消費が0.9%、政府消費が1.0%、投資▲0.3%となった。今期は投資がやや減少したが、趨勢的に見れば内需の拡大傾向が続いていると評価できる(図表4)。実質輸出入のデータは公表されていないが、純輸出寄与度を逆算すると、前年比寄与度で0.30%ポイントとなっている。

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

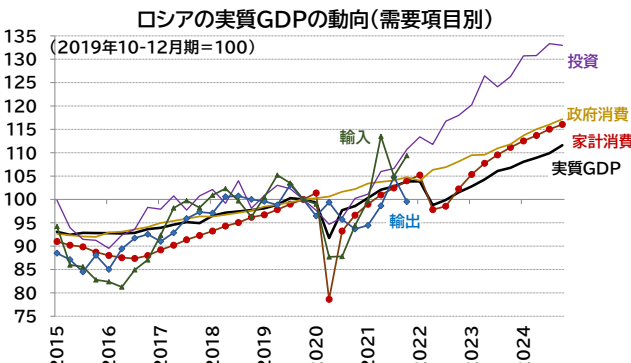
産業別の伸び率は、前年比で第一次産業が▲8.9%、第二次産業が4.5%、第三次産業（金融・不動産）が5.2%、第三次産業（その他）が4.9%、前期比では第一次産業が▲7.0%、第二次産業が1.6%、第三次産業（金融・不動産）が2.3%、第三次産業（その他）が1.8%となった。24年10-12月期は第一次産業が急落したものの、第二次産業、第三次産業は成長トレンドが続いている（図表5）。より細かい産業の伸び率では、芸術・娯楽サービス（17.9%）の高い前期比伸び率が目立った（図表3）。

（図表3）



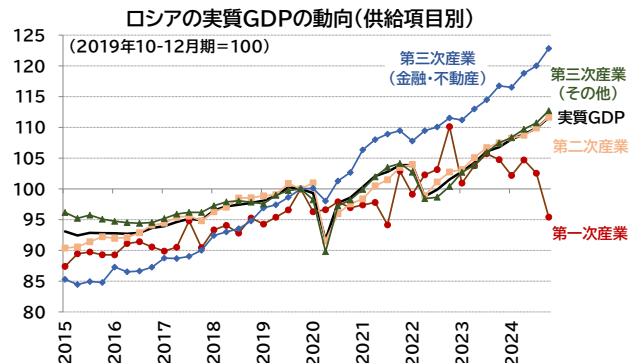
（注）□は2020年の実質GDP全体に対するウェイト、産業分類伸び率およびウェイトは筆者による試算、ウクライナ侵攻前比は21年10-12月期との比較
（資料）ロシア連邦統計局のデータをCEICより取得

（図表4）



（注）季節調整系列の19年10-12月期を100として指数化、22年以降の輸出入のデータなし（四半期）
（資料）ロシア連邦統計局のデータをCEICより取得

（図表5）



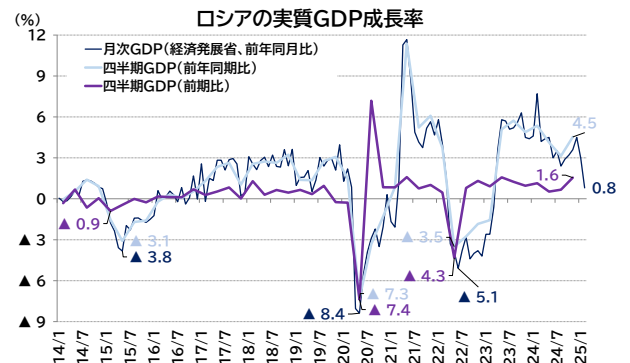
（注）季節調整系列の19年10-12月期を100として指数化（四半期）
（資料）ロシア連邦統計局のデータをCEICより取得

ウクライナ侵攻前との比較では、戦争前までロシア経済のけん引役だった鉱業（▲4.2%）がマイナス圏にとどまる一方、金融サービス（35.6%）、住居・飲食サービス（31.9%）、芸術・娯楽サービス（31.5%）といった産業の活動水準が高い。

10-12月期の名目成長率は前年同期比12.0%（前期10.1%）、GDPデフレーター伸び率は前年同期比7.2%（同6.6%）となり、10-12月期はデフレーターが反発している。

なお、直近までの動向を経済発展省が公表する月次のGDP成長率（前年比）から確認すると、24年10月3.2%、11月3.6%、12月4.5%、25年1月3.0%、2月0.8%であり、25年入り後、足もとの成長率には陰りも見られる（図表6）。

（図表6）



（注）月次GDPは経済発展省の推計値
（資料）CEIC

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。